

浜っ子の笑顔が私たちの喜びです

保育園や小学校で活動する町の先生に子どもたちへの思いややりがいを聞きました



子どもたちには、地域を理解してもらい、地域を愛する気持ちを持ってほしいと思っています。

子どもたちには、地域を理解してもらい、地域を愛する気持ちを持ってほしいと思っています。

観田 健治さん



歴史



子どもたちが物事を素直に吸収するところが素敵だと感じています。相手の気持ちを理解して、相手に対する思いやりを大切にするといいです。

5年程前から保育園で茶道を通じて礼儀作法と美学を教えています。子どもたちに地域のことを知ってもらうため、赤倉山などの雰囲気を出せるよう野点傘を飾るなど工夫しています。

加賀 忍さん



茶道



事前に準備した組子の部材を使い、子どもや高齢者が組子を作り上げた時の笑顔を見ると、やりがいを感じます。

田鶴浜の地場産業である田鶴浜建具の普及啓発になればと思い、児童の組子体験教室などに協力しています。

立川 美治さん



伝統工芸



気軽に俳句を作っているいろいろな俳句大会に投句して楽しんでほしいですし、入賞したことを聞くとうれしく思います。

小学校で俳句の指導をして10年目を迎えます。児童には、俳句を通して身近な自然や環境問題などに気付いたり、家族の絆や地域の行事などを大切にしたりにして、ふるさとを忘れないでほしいです。

谷渡 末枝さん



俳句



ふるさと伝統芸能子ども発表会に向けてサポート

井上さんら町の先生を含む木遣り音頭保存会や地方史の会のメンバーによる熱のこもった指導を受け、ふるさと伝統芸能子ども発表会に向けて練習する5年生の児童たち。住吉大祭で行われる行事「奉書迎え」や山車を引く時に打ち鳴らす太鼓やかね、「木遣り音頭」を発表会で披露しようという練習に打ち込んだ。保存会のメンバーから太鼓を打つリズムや木遣りをうたう時の発声の仕方などを教わり、本番前に全校児童の前で開かれたお披露目会では、練習の成果を發揮しようと緊張した表情を見せる児童もいた。



本番では、指導に当たったメンバーが児童と一緒に舞台の上で木遣り音頭をうたい、山車を引いて、地域一体となって祭りを再現した。発表が終わると会場から大きな拍手が送られ、児童は晴れ晴れとした笑顔を見せ、メンバーも達成感をにじませた。最後に児童がお世話になった人全員に感謝の気持ちを伝えると、代表して井上さんは「地域のことを学んでくれてありがとう」と述べ、メンバーは温かいまなざしで拍手を送った。

